

2025.06.16 版

2025 年度 第 21 回「若手研究者支援プログラム」のお知らせ

奈良女子大学古代学・聖地学研究センターは、第 21 回「若手研究者支援プログラム」を、8 月 25 日(月)に、科学研究費基盤研究(B)「平安期における古代漢文学の質的変容解明にむけた空海作品からのアプローチ」(代表：筑波大学名誉教授 谷口孝介)・同基盤研究(B)「敦煌書儀・類書文献の受容実態から解明する古代日本文学の特質」(代表：信州大学教授 西一夫)との共催で開催させていただきます。今回も前回と同様、奈良女子大学にて対面形式のみにて開催いたします。

前回の本プログラムにおいては、「辞書と類書」を大テーマとし、上代から平安時代にかけての官人達が有していた知識教養の形成の過程とその内実を、広く比較文化的観点から理解することを目指しました。今回も引き続き同様の観点に立ちつつ、日本と中国とのより具体的な接点である文字、すなわち漢字に即して、「古代日本における文字との出会い」を大テーマとすることにいたしました。上代から平安時代にかけての日本の知識人達が、中国の漢字とその体系をどのように学び、どのようにして自らの言語や文学に取り入れ、日本語の文字として独自に発展させていったのか、古代日本人の漢字との邂逅の実態について学ぶプログラムを開催いたします。

国語学分野では、空海撰『篆隸萬象名義』をはじめとする日中の古辞書の研究がご専門の李媛氏、中国古典学の分野では、中国中古の書論及び書芸をめぐる言説の研究がご専門の成田健太郎氏、そして、もうひとかた国語学分野では、漢字の字形や字体、特には異体字・国字の研究がご専門の笹原宏之氏に講師をお願いし、それぞれのご専門の立場から、古代日本における漢字をめぐる諸問題についてお話しいたします。ご講演の後には、参加の若手研究者が各講師に質問を行う時間を設けて、若手の積極的な参加を促すとともに、会場にお集まりのみなさまと問題の共有化をはかります。

本プログラムを通して、少しでも多くの若手研究者がこの問題に関心をもってくださることを願うとともに、国語学・国文学のみならず中国語学や中国文学、或いは日中比較文学の研究者にも新しい視点や考え方を提示する機会となることを願っております。

本プログラムは、主に日本古代の語学・文学分野の若手研究者の研究支援を目的としていますが、幅広い世代の専門研究者や一般の方々の御参加を歓迎しております。年齢やキャリア、専門分野などを問わず、多数の方々にご参加くださることを期待しております。なお、大学および研究機関等で御指導に当たられている先生方におかれましては、ぜひ大学院生・研究生諸氏に本プログラムを御紹介くださいますようお願い申し上げます。

奈良女子大学古代学・聖地学研究センター
若手研究者支援事業担当 奥村 和美

第21回「若手研究者支援プログラム」

古代日本における 文字との出会い

主 催：奈良女子大学古代学・聖地学研究センター

共 催：科研費基盤(B)「平安期における古代漢文学の質的変容解明にむけた空海作品からのアプローチ」(代表：筑波大学名誉教授 谷口孝介)
科研費基盤(B)「敦煌書儀・類書文献の受容実態から解明する古代日本文学の特質」(代表：信州大学教授 西一夫)

令和7年 **8月25日** 月 **11:00~17:00**
(10:30開場)

会 場：奈良女子大学 文学部N棟202教室

講 演：無料(事前申込み制)

※オンライン形式の併用はいたしません。対面のみです。一般来聴を歓迎します。
※研究者としてご参加の場合、**令和7年8月18日(月)**までに、事前申込み下さい。
※天候や災害等の状況によっては、大幅に予定を変更することもございます。
変更する場合は、奈良女子大学HP上にてお知らせいたします。

『篆隸万象名義』の類書的側面

－漢文節による注釈と原本『玉篇』との比較を中心に－

講 師：京都大学人文科学研究所助教 **李 媛**

(昼休み)

空海の伝えた漢字書体リソース

講 師：京都大学准教授

成田健太郎

漢字の使用における奈良・平安時代の断層

－中古に現れた字種・字体・字義－

講 師：早稲田大学教授

笹原 宏之

・司 会：奈良女子大学教授 **奥村 和美**



問い合わせ：

奈良女子大学古代学・聖地学研究センター

E-mail: kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp

(電話にてのお問い合わせはご遠慮ください)

QRコードまたは

以下のURLからお申し込みください。

[<https://forms.gle/hQqFx2pxoUjxzizA7>]

